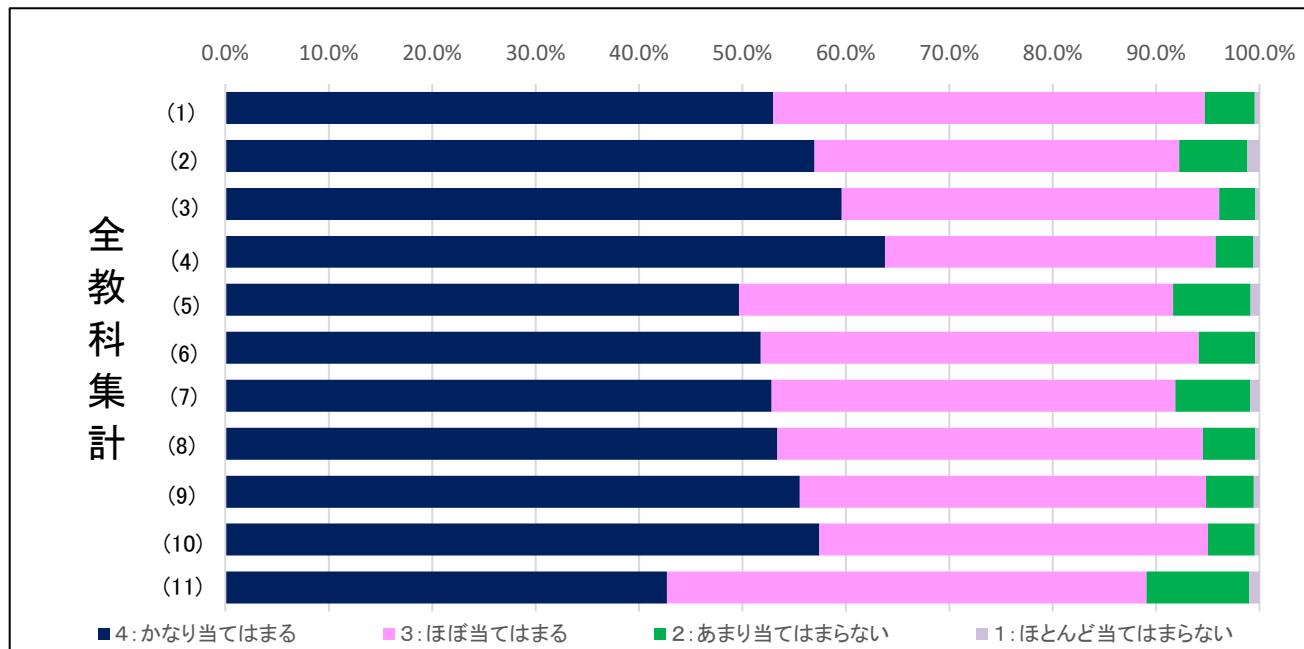
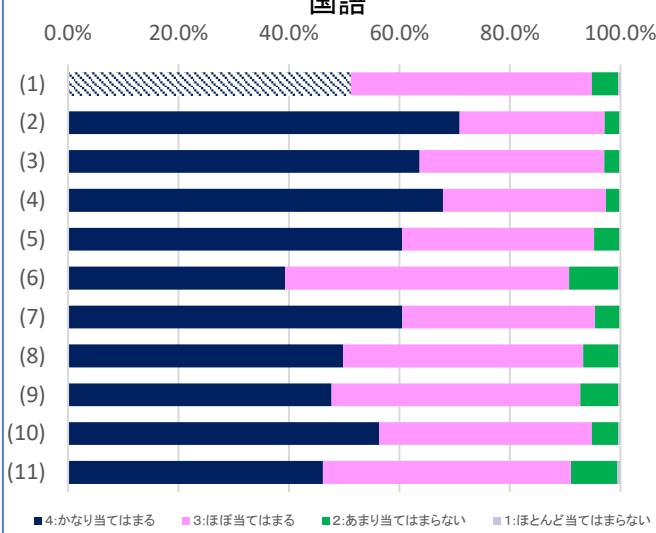


令和6年度 第1回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和6年6月17日～7月5日実施)

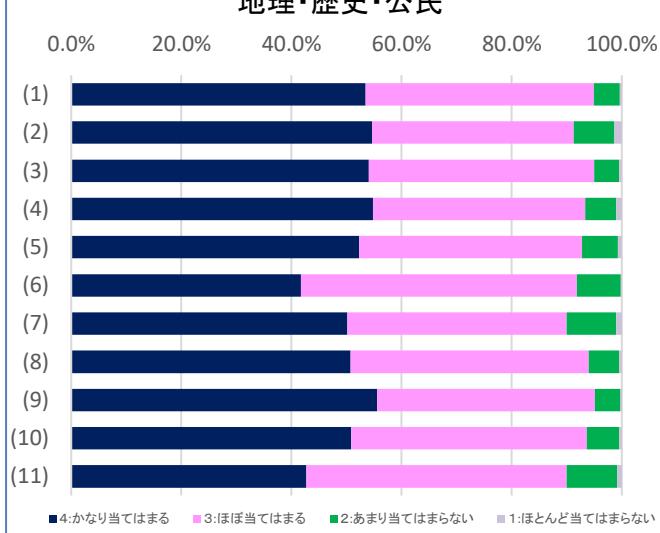
大項目	小項目
授業の在り方にについて	(1) 毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2) 単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3) 単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4) 主体的・協働的に課題を解決する場面がある。
	(5) 批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6) 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7) 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8) 授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9) 授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10) 主体的・協働的に課題を解決に取組むことができた。
	(11) 批判的・論理的に思考し、表現することができた。
評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。



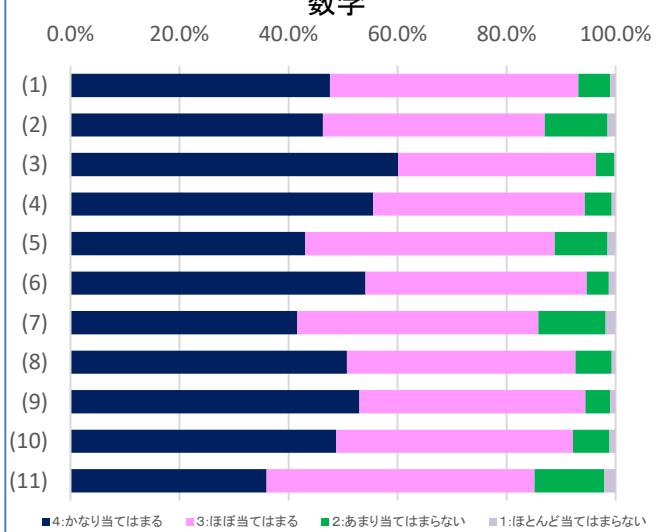
国語



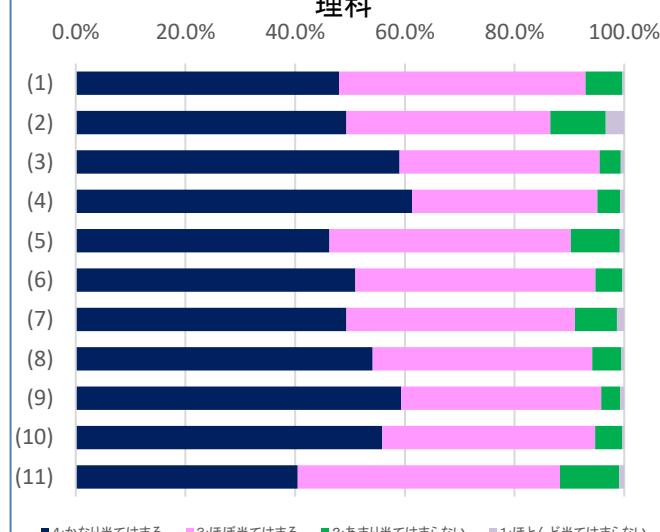
地理・歴史・公民



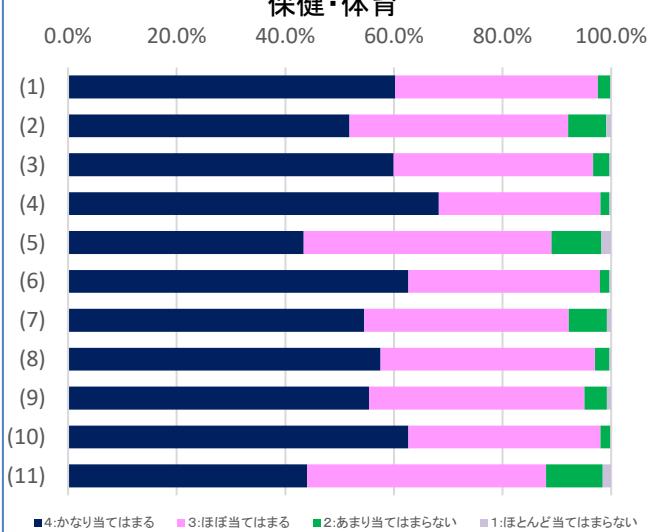
数学



理科



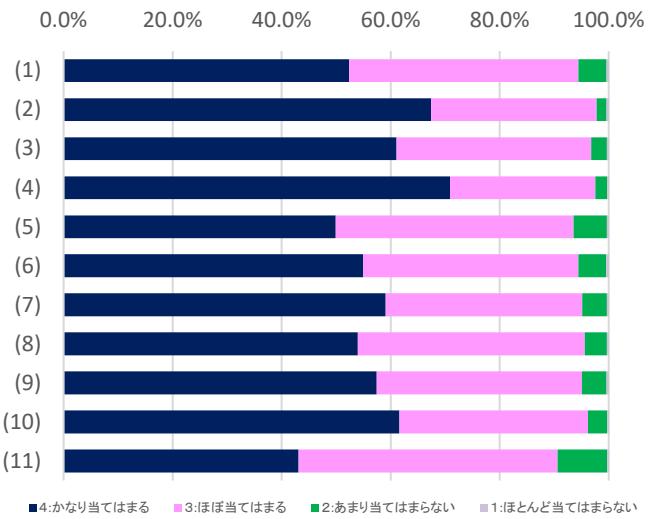
保健・体育



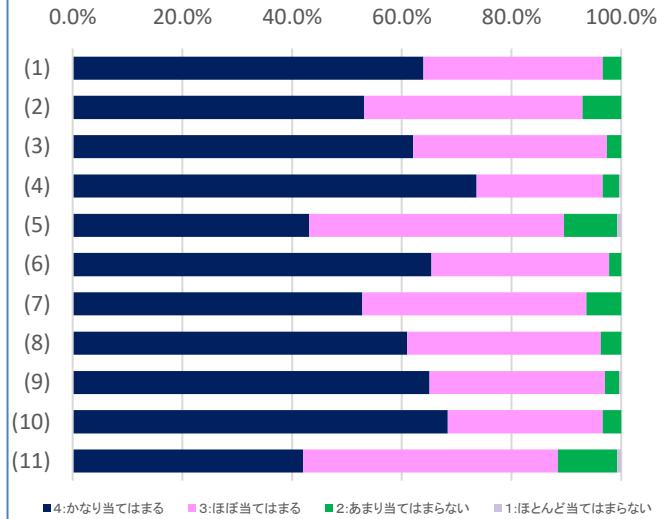
芸術



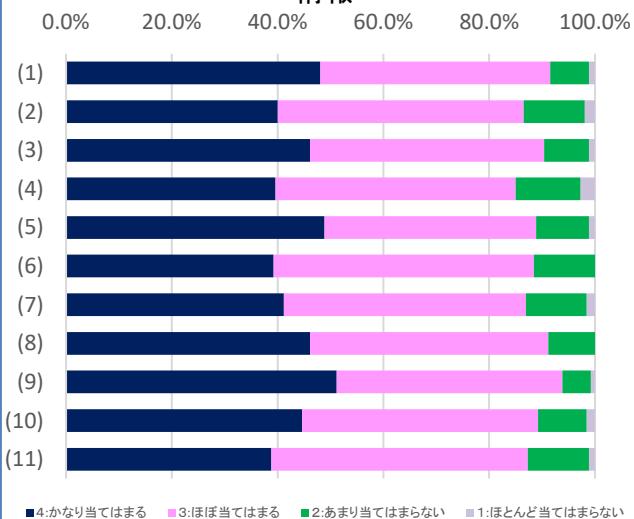
外国語・国際



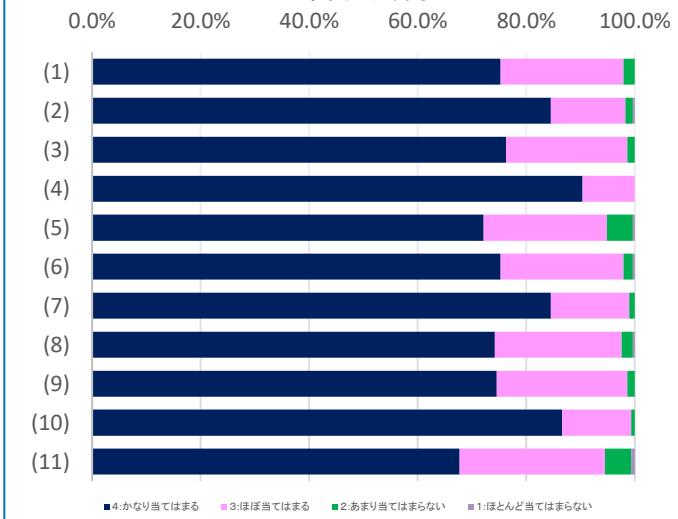
家庭・看護



情報



舞台芸術



令和6年度 第1回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科	授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらいを示す項目についての評価は高い。 ● 現代文分野においては他者の考えを知り、広げ深める、主体・協働・批判・論理の項目は高いが、古典分野においては低い傾向にある。 ● 全科目において、できるようになったことを実感することができた、の項目への評価が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き目標の明示をおこなう。 ● 正直、古典分野での(生徒にとって分かりやすい)批判は難しい部分もあるが、例えば現代でその古典がリメイクされていたり、批評されてたりする資料を引用する等の取り組みが考えられる。 ● 活動の場面を増やし、実感の機会を設けたい。
地理 歴史 公民	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導すべき内容が多く、多岐に渡る教科の特性がある上に授業時間は制約されている。一方で生徒は教科書を終わらせてほしいという強い要望がある。そのような現状の中、自ら考える機会や協働的な学びを行う時間を多くはとれず、その観点での評価が低くなっている。 ● 内容が身についたできるようになったという実感が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元のまとめを協働的に行う学習活動など、自ら考える機会や協働的な学びを行う時間を可能な限り、入れていく。また、授業内容を精選し、そのような活動を行う時間を作る。 ● 少しでも演習的な時間を取り入れていく。授業冒頭の時間の使い方を工夫し、生徒が見通しをもって授業を受けられるように工夫していく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ● 項目(1)について、3・4の割合が高い。 ● 1つの解法を伝達する場面が多く、項目(5)、(11)について、3・4の割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小テスト等、前時の内容の振り返りを継続的に行っていく。 ● 別解等、異なる角度の解法や思考を促す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ● 項目(5)、(11)の批判的・論理的思考についての値が低い。 ● 項目(7)の他者の考えを知る機会が少ないので改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 批判的や理論的な思考について教科内で意識を統一し生徒にも意識づけ授業内でなるべく活動を取り入れる。 ● グループワーク以外でも他者の考えを聞く時間を作り、理科的思考や様々な意見を発表する場を作る。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業のあり方について、概ね満足度は高いものである。特に教科全体で学習のねらいの確認や振り返りの機会を設けていることをが授業で身についたことやできるようになったことを実感することについての評価が全体的に高くなつたと考える。 ● 批判的・論理的に思考し、表現する学習活動については、授業のあり方としても生徒の取組としても他の項目と比較して、低い評価である。どの種目でも自分やチーム、他者の動きを分析して課題解決する活動であるが、生徒に意識づけができない現状だと考える。 ● 身近な話題や日常生活のできごとと内容を関連させることで生徒の興味関心をより高めることができており、思考する機会も多いと思われる。更に批判思考力を高める活動を取り入れていきたい。 ● 満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して教科全体で現状の課題だけでなく、良い取り組みについても情報共有をしながら教科全体で授業改善に取り組んでいく。 ● 活動自体は現状もやっていることが、それぞれの種目で「どこが良くて、どこが悪いのか、どうしたら改善できるのか」のポイントについて、改めて教師が整理することで、生徒に意識的に批判的思考を促すことを実践していく。 ● 今後も身近な話題やと日常生活を内容と関連させることで、思考したことをプリントにまとめたり、発表したりする機会を設ける。また、さまざまなデータや考え方と自らの意見を比較し、考察できるようなグループワークやペアワーク、調べ学習やプレゼンなどの活動を積極的に取り入れていく。 ● スポーツにかかわる課題を心理的側面から明らかにしてスポーツを実践できるように、科学的知識を育成していく。教科会で授業の内容等について話し合い、意見交換を行う。
芸術	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度は概ね高い。 ● 今後もさらに生徒が主体的に取り組める授業を展開していきたい。
	美術 工芸 書道	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度は概ね高い。 ● 生徒の意識が個人の制作活動に集中し、全体講評や制作途中のプレゼンテーションなどで対話的活動をしている意識が薄い。
外国語 国際	<ul style="list-style-type: none"> ● 「批判的・論理的に思考し表現する時間」について、学年が進むにつれて4や3が増えている。 ● 「生徒が批判的・論理的に思考できている」と感じるのは「授業で得た知識を別の場面で使う時」とだと推定される。 ● Can-Doリストが達成できているかを確認できる手法が確立できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業で得た知識・技能を元に自分の考えを深めたり、表現する時間を設ける。 ● 4技能を実践的に活用するため、知識・技能を定着させる時間を設ける。具体的には、予想を立てさせる発問や学んだことを授業内で使わせる実践の場面を設ける。 ● 現状は課題の提出物や小テスト等の方法しかない。まとめ役の主導で他教員と足並みを揃えられる様にさらなる工夫をしたい。
家庭 看護	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に満足度は高い。 ● 座学でも意欲を引き出していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前期に行なった被服実習では、多くの生徒が苦手意識が無くなり、達成感を感じられたようである。 ● 教科で、生徒の反応の良い内容を共有していく。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 他者の考えを聞き、取り入れる取り組みに関して、どの科目もほかの項目より比較的低く出していた。 ● 批判的・論理的に施行し、表現することができたという項目もほかの項目より比較的低く出していた。 ● 講義型で授業を行うことや情報機器を用いた課題での作業が多かったため、グループワークなどの他人と意見を共有する項目が少なく出てしまった。 ● コメントを分析した結果、最近のニュースの紹介や授業内容が身近なものを例に上げることが多く、生徒からイメージしやすいといった意見があった。また、授業でスライドを使用しながら配布もしているため、スライドがノートにもなる点が良いといった意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義型の授業展開を少なくし、グループワーク多く取り入れた授業にする。 ● コンピュータを用いたグループワークもできる課題を授業で取り入れる。 ● 講義型の授業の内容をしっかりと精査し、まとめ、短くし、その分グループワークを多く取り入れる。
舞台 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度はおおむね高い。 ● 実技科目で、「批判的・論理的に思考し、表現することができた。」の評価が低い傾向がある。 ● 伝統芸能は「型を学ぶ」ことが重視されるため、評価項目では測れない面がある。 ● 昨年度は単元のまとめを意識しにくい生徒がいたが、改善が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常に勤講師の授業も含めて常に授業公開し、意見交換を行う。講師が集合するミーティングを開いて情報交換を行い、成果と課題を明確にすることで、毎回の授業を組み立てを工夫する。 ● 課題の設定や声掛けを工夫し、生徒が意識的に論理的思考を働かせられるようにする。一方、芸術の特性を大切にし、生徒の自覚のための説明をし過ぎることのないように注意する。 ● 一つの科目だけで測るのではなく、舞台芸術科目の学びを全体的に捉え、伝統芸能を学ぶことの意義や、カリキュラムマネジメントにおける位置づけを意 ● 教科書・副教材がないため、生徒は単元を意識しにくい。単元ごとのねらいや振り返りを明確に提示するようにした。